

ペルソナ A

興味津津、発見、驚きの旅

小さな蚕の物語

知的好奇心溢れる親と子が、共に揃って楽しめる、

蚕の秘密探る、絹遺産体験の旅

夕食後の一家団欒。ダイニングで父はテレビを、母は台所で夕飯の後片付け。そこへ、子供が富岡製糸場の写真記事の載っている雑誌（教科書や参考書、歴史書など）を片手に、父に尋ねる。

*子供は一人でも二人でもよい。



- 子供 「群馬県の富岡って、どの辺だろう」
父 「何を見てるんだい」
子供 「世界遺産の富岡製糸場」
母 「へえ、製糸場に興味があるんだ」
子供 「製糸場って、糸を作る所でしょ」
父 「ああ、繭から生糸を採るんだ」
子供 「繭って、何？」
母 「蚕が吐き出す糸の玉よ」
子供 「蚕・・・？」
母 「知らないの」
父 「ママは？」
母 「写真では見たことあるけど・・・」
子供 「見てみたいな」

母 「確か、群馬で蚕が見られる所があるんじゃないかしら」
父 「そうか、じゃあ、今度の休みに行ってみるか」

父の提案に同意する母と子供。
そして・・・。



富岡製糸場の前に立つ、家族。
その煉瓦造りの建物に、明治時代の殖産興業の写真が重なる。
長い鎖国の時代が終わった日本は、富国強兵、殖産興業で、近代国家を築いていった。
興味津津の子供たち。

製糸場の見学。

子供 「わーっ、大きいなあ・・・！！」
広々とした内部にズラリと並ぶ織物機械。
ガイドツアーに参加して説明を聞く。
感心して聞きいる親子。この親子にとって見るもの全てが大きな驚きだ！



そして、初めて「蚕」を見る。

子供 「わっ、かわいい！」
子供は夢中。でも、ママは・・・
桑の葉を食む蚕の姿。今度はそっと触れてみる。
子供 「柔らかい・・・！」
父 「この蚕が糸をはき出して、繭になるんだ」

繭玉が作られて行く写真など・・・。

繭玉をそっと触る子供。

子供 「繭玉って軽いんだね」

華奢な繭玉を、大事に手の上で眺める。



そして、糸繰り作業をしげしげと見る。

母 「へえ、こうして生糸を紡いでいくのね」

父 「根気のいる仕事だなあ・・・」

子供も、糸繰り作業をじっと見つめる。



今度は、「生糸」に触れてみる。

子供 「とてもやわらかいよ」

母 「わっ、綺麗ね！」

父 「この繭から出来た生糸は、世界で一番品質が良かったんだ。日本はこれを輸出して、ヨーロッパ諸国に負けない、大国になったんだぞ」

さらに・・・

「蚕種」を保存している、荒船風穴を廻る。

荒船風穴の説明

蚕の飼育方法にも関心を示し、田島弥平旧宅へ。

田島弥平旧宅の説明。



次に「高山社跡」で、「清温育」の説明を受ける。

* ここで、このペルソナにふさわしい、場所を入れて行きます。

小さな蚕がうごめく姿。

繭を作る。

その繭玉のアップ。

大きな驚きに、子供たちの瞳がキラキラと輝く。

子供 「蚕ってすごいな・・・。日本ってすごいな」

上州武州の人たちが、コツコツ努力して、生糸を作った。
家族はしみじみと、この土地の人々の偉業にも感心する。

色んな所を回って、色んな事が分かったけど・・・

子供 「あっ、お腹、空いちゃった！！」

* グルメスポットの写真が次々と紹介。

その中の一つのグルメを味わう親子。

子供のアップに・・・



子供 「ああ、おいしかった！」



おわり